

平成二十二年（二〇一〇年）九月十三日 神の愛と人の愛

神から人へ、人から神へ。

神の慈愛は巡り巡りて、天から大地へ、大海へ、自然の織り成す 生々流転、神の恵みと 溢れたり。

神の慈愛は 眼に見えぬ、自然の営み、生成化育、全てに込められ、秘められたり。

神の慈愛は、全てのものを、豊かに富ませ、潤して、留まることなき 時の流れに、生まれる命も 亡ぶ命も、等しく 神の愛を受け、神の願いに外れるものは、一切なきを 伝えたり。

神の慈愛を知るは難し。人はこの世の次元にて、神の慈愛を 感じる 少なし。

なれど御魂の奥底に、神の願いは刻まれたれば、神は人の体を使い、心を使って 顕わしたり。

神の慈愛は、人を通して、人が人を愛する時に、神も共にて 愛したり。

人への愛は、人のみならず。神も人の愛を介して、神の無限の愛を示さる。

人は神の願いを叶える、この世の次元の具象物。

森羅万象、全ての事物に、人は神の愛を知るべし。

限なく照らす神の光を、人は心の目で見るべし。

神はこの世を愛するために、人を創りて、愛を興せり。愛をこの世に実現するには、この世に生き得る 命を要す。

自然の中に生きる全ては、神の慈愛のままなり。

なれど無償の利他愛こそは、神の慈愛をこの世に叶える、最も神に近き愛なり。

無償の愛を施せる、輝く御魂よ 地に満ちよ。

人は一人を愛せばよし。一人を愛することのうちに、人は神から愛を受けむ。

人へ与えし利他愛は、神の慈愛の証ならむ。

己の内より溢れ出づ、無限の愛は、神の愛。

人は己が愛するになし。神の慈愛が己の中に、宿りて 初めて、愛するなり。

尊き神の慈愛を受ける、清き器を 用意せよ。

清き器に 神の慈愛は、満たされ、溢れて、潤わさむ。

一人ひとりが、器となれよ。

穢れし器は、清め 磨けよ。清める術は 言霊ならむ。

神の慈愛は光なり。

神の慈愛は曇りなく、受ける器の人を清めて、さらなる高みに昇華を許さむ。

この世に命を預かりて、肉体持ちて生れしは、ただひたすらに、神の慈愛を、この世に映す、そのためのみ。

己の小さき願望、欲望、その実現に 心奪われ、見失いしは、神との約束。

神は 人を愛するもの。

人は 神を求めるもの。

人の御魂は神の一部、宇宙の一部を 成すものなれば、人は御魂の奥底にて、神への回帰を 希求せるもの。

人の御魂の根源に、神の慈愛を 呼び覚ませよ。

人の自然は、宇宙と一体。

人は 宇宙に願うもの。宇宙の願いと一体ならむと。

人が愛の心を持つ時、人は神の願いを生きる。

人は 神に祈るもの。神の御魂に戻らむと。神の次元に昇らむと。

人の愛は、この世の次元。物質次元の愛なれど、神の慈愛を実現せしとき、人は尊き導きを得む。

神の慈愛に導かれよ。神の慈愛に身を任せよ。心素直に、しなやかに、疑う心を先ずは 治めよ。さにて。